

マニュアルの解説書

1. 口蹄疫の発症初期の牛・豚の症状

口蹄疫とは牛、豚、羊、ヤギ等の蹄が偶数に割れている動物（哺乳綱偶蹄目）にのみ伝染する伝染病で、一度発生すると伝染力が強く、家畜法定伝染病に指定されている。

口蹄疫にかかった家畜は、口や蹄部の皮膚に水疱（すいほう）を形成する。感染率や発生率は高く、致死率は成畜では低いが、幼畜は高い。

口蹄疫ウイルスは病変部に濃厚に存在し、形成された水疱が破れると床や畜舎を汚染し、唾液や呼吸から飛散し、牛乳や精液などにも混在している。

アジア、アフリカ、南アメリカには常在しており、日本では2000年と2010年に宮崎県で発生した。

特に2010年は宮崎県で牛、豚併せて約30万頭を殺処分する等畜産業を始め、国民生活全体に多大な損害を与えた。

口蹄疫に感染した牛、豚の発症初期症状は次のとおりである。

(牛の場合の症状)

臨床症状

発熱、食欲不振とともに流涎（りゅうぜん）が見られる。流涎は泡沫状（ほうまつ状）で粘調性（ねんちょうせい）が高く、鼻汁を伴う場合もある。



泡沫性流涎（黒毛和種）



粘稠性流涎（黒毛和種）



舌の水疱（黒毛和種）



口唇の水疱（黒毛和種）



鼻腔の水疱（ホルスタイン種）



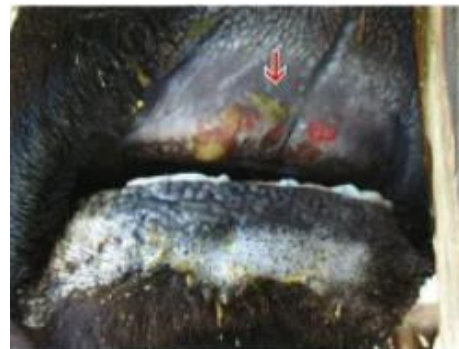
乳頭の水疱（黒毛和種）

病変

びらんは水疱が破れた後、赤褐色の病変として確認できる。



上唇のびらん（黒毛和種）



歯床板のびらん（黒毛和種）



舌のびらん（黒毛和種）



乳頭のびらん（黒毛和種）

(豚の場合の症状)

臨床症状

水疱（すいほう）は鼻部、口腔、乳房、乳頭及び四肢・蹄の順によく発病する。
水疱の計上は鼻端背側や鼻鏡では大型、他の部分ではやや小型であった。
びらんは水疱が破れ、出血を伴い、四肢及び蹄によく見られる。



鼻端背側の水疱



鼻鏡の水疱



蹄冠部の水疱



乳房・乳頭の水疱



鼻端の水疱・びらん



鼻鏡びらん



乳房・乳頭のびらん



蹄冠部のびらん



蹄間のびらん

写真は「口蹄疫の早期発見と発生予防のために」（社団法人中央畜産会）より抜粋

2. 車両の消毒方法について

家畜伝染病の侵入を防ぎ、病原体の飛散を防ぐため、車両等の消毒は非常に大切である。

消毒には「日頃の予防的な消毒」と「口蹄疫等伝染病発生時の防疫措置としての消毒」とに大別される。

予防的な消毒薬としては「汎用性の高い消毒薬」を用いるが、口蹄疫の侵入リスクが高くなったと考えられる時には「炭酸ソーダ、苛性ソーダ等」の口蹄疫に対する効果が高いものへの変更が必要となる。

食肉処理施設は口蹄疫等の病原体の侵入防止を図るため、車両の出入口に消毒槽やシャワー又は噴霧式の消毒装置により車両を消毒するが、国内で口蹄疫等にかかった家畜が確認された場合は動力噴霧機を用いてタイヤ等の車両下部や運転席の消毒を行うことが必要となる。

車両消毒に用いる消毒薬及び口蹄疫等にかかった家畜が国内で確認された場合の車両消毒の方法は下記のとおりである。

(車両消毒に使う消毒等)

1. 4%炭酸ナトリウム (別名：4%炭酸ソーダ)

2. その他の消毒薬

口蹄疫ウイルスに効果があるとされている消毒薬

分類	商品名	効果が認められる 最高希釈倍数 (注)
ヨウ素系消毒薬	クリンナップA	400倍
	ファインホール	400倍
	バイオシッド30	1,000倍
塩素系消毒薬	アンテックビルコンS	2,000倍
	クレンテ	2,000倍
	スミクロール	1,000倍
アルデヒド系消毒薬	グルタクリーン	800倍
複合消毒薬	アリバンド	400倍
NaOH添加消毒薬	クリアキル-100 (NaOH添加)	2,000倍

【各作業と消毒液の適正化】

消毒液の特性を踏まえ、適切な消毒液を正しい濃度に希釈して用いる。

	炭酸ナトリウム	ヨウ素系	塩素系	アルデヒド系	複合	NaOH 添加消毒薬
1. 車体の洗浄	○	× (腐食)	× (腐食)	○	× (腐食)	× (腐食)
幌	○	× (着色)	○	○	○	○
2. タイヤ	○	○	○	○	○	○
タイヤハウス	○	× (腐食)	× (腐食)	○	× (腐食)	× (腐食)
3. エンジンルーム	○	× (腐食)	× (腐食)	○	× (腐食)	× (腐食)
2. コックピット						
フロアーマット	○	○	○	○	○	○
ペダル類	○	× (腐食)	× (腐食)	○	× (腐食)	× (腐食)
その他 (金属を除く)	× (析出)	× (着色)	○	○	○	× (析出)
その他 (金属)	× (析出)	× (腐食)	× (腐食)	○	× (腐食)	× (腐食)

(国内で口蹄疫等が確認された場合の車両の消毒の方法)

(1) 動力噴霧機を用いて車体の下回りを上部から下部に向けて入念に洗浄、消毒する。

また、サイドガードやバンパー、シャーシーレールの内側等死角が生じないように洗浄する。特にタイヤハウス、泥除け、ホイール、タイヤを入念に消毒する。

(2) 運転席についても消毒する。この場合、着色や腐食を起こさないアルデヒド系の消毒薬を使用することが必要である。

(3) 食肉処理施設の敷地内については「消石灰」を m^2 当たり0.5～1kg地面の表面がムラなく白くなる程度に散布する。

(4) 消毒時の留意点

- ・種類の違う消毒薬を混ぜて使わないこと。
- ・消毒薬は定期的に交換すること。また、消毒薬が汚れた場合は直ちに交換すること。